

昭和九年度

時局匡救醫療救護實施概況

內務省衛生局

国立保健医療科学院蔵書

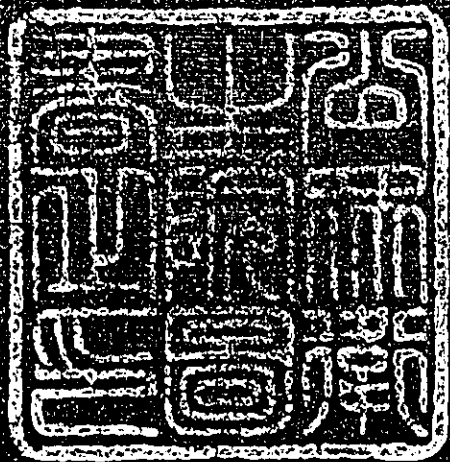


10012045

昭和九年
時局匡救
醫療救護
實施概況
衛生局

P-B
P昭9
3

P-B
PPE-7
3



昭和九年度時局匡救醫療救護實施狀況

目次

第一	實施狀況	一
第二	本年度ニ於ケル醫療救護費	二
	一、御下賜金並國費配當額	二
	二、道府縣支出豫算額	六
第三	醫療救護成績總括	七
	一、診療施設別患者數及治療日數	七
	二、醫療救護取扱患者年齢別	九
	三、本施設ニ於テ取扱ハレル疾病	二〇
第四	道府縣ニ於ケル醫療救護實施狀況	二一
	京都府	三
	兵庫縣	三
	埼玉縣	三
	愛知縣	七
	大阪府	三
	奈良縣	三
	神奈川縣	二
	新潟縣	九
	長野縣	三
	山梨縣	一
	静岡縣	四
	岐阜縣	四
	山梨縣	五
	長野縣	九
	新潟縣	九
	神奈川縣	二
	大阪府	三
	兵庫縣	三
	京都府	三

昭和九年度時局匡救醫療救護實施狀況

目次

第一	實施狀況	一
第二	本年度ニ於ケル醫療救護費	二
一、	御下賜金並國費配當額	二
二、	道府縣支出豫算額	六
第三	醫療救護成績總括	七
一、	診療施設別患者數及治療日數	七
二、	醫療救護取扱患者年齢別	九
三、	本施設ニ於テ取扱ハレタル疾病	一〇
第四	道府縣ニ於ケル醫療救護實施狀況	二
京都府	三	二
兵庫縣	三	二
埼玉縣	三	二
愛知縣	三	二
大阪府	三	二
長崎縣	三	二
福岡縣	三	二
奈良縣	三	二
神奈川縣	三	二
新潟縣	三	二
山梨縣	三	二
静岡縣	三	二
徳島縣	三	二
香川縣	三	二
高松縣	三	二
愛媛縣	三	二
高知縣	三	二
山口縣	三	二
島根縣	三	二
岡山縣	三	二
広島縣	三	二
山口縣	三	二
徳島縣	三	二
香川縣	三	二
高松縣	三	二
愛媛縣	三	二
高知縣	三	二

滋賀縣	豐	岐阜縣	奧	長野縣	奧
宮城縣	聖	福島縣	奧	岩手縣	五
青森縣	五	山形縣	共	秋田縣	六
福井縣	六	石川縣	六	富山縣	六
岡山縣	六	廣島縣	七	山口縣	七
和歌山縣	五	徳島縣	共	香川縣	七
愛媛縣	六	高知縣	六	福岡縣	七
大分縣	六	佐賀縣	六	熊本縣	六
宮崎縣	五	鹿兒島縣	五	沖繩縣	九
其ノ他ノ府縣	一〇三				

第五 醫療救護ニ關スル諸表

第一表 醫療救護取扱患者數及治療日數

第二表 醫療救護取扱患者年齡別

第三表 醫療救護取扱患者病類別

時局匡救醫療救護實施概況

第一 實施狀況

昭和七年度ヨリ三ヶ年ノ繼續事業トシテ實施セラレタル時局匡救醫療救護ハ其ノ最終年度タル昭和九年度ニ於テ前年度ト同シク御下賜金百二十萬圓ト之ト同額ノ國費トヲ以テ施行セラレタリ。然ルニ一般經濟界ノ不況ハ依然トシテ好轉ノ徵ヲ認メザルノミナラス、各地方ニ種々ノ災害相次テ起コリ旱害ニ次グニ水害、冷害、雪害等ノ天災ニヨリ農山村ノ農産物ハ著シク減收シ養蠶業又振ハザル等生活ノ窮乏ニ陥ルモノ激増シ、更ニ中國四國近畿及關東地方ニアリテハ都市モ亦未會有ノ暴風雨ニ襲ハレ、其ノ被害甚大ニシテ要救療者ノ數著シク増加セルニ鑑ミ昭和九年十一月召集セラレタル臨時議會ニ於テ協賛ヲ經タル金三十萬圓ヲ災害地方ニ對シ追加配當シ本事業遂行上遺憾ナキヲ期シ、實施ノ方法ハ前年度ト同一ノ方針ヲ以テ、昭和七年八月二十日、御沙汰ニ依ル宮内大臣ノ訓令、内務次官及衛生局長ノ通牒ニ基キ農山漁村ニ於ケル貧困ノ爲醫療ヲ受クル能ハザル者ニ對シ救療ヲ行フト共ニ都市ニ於ケル無告ノ窮民ニ對スル醫療救護ニ就テモ更ニ其ノ充實ヲ期セリ。道府縣ニ於テモ既往ノ經驗ニ基キ其ノ施設ハ益々整備充實ヲ見、本事業ハ趣旨ハ愈々徹底シ漏救濫救等ノ弊モ次第ニ矯正シ得タリ。殊ニ災害著シキ地方ニ對シテハ慎重考慮ヲ拂ヒ夫々適切ナル施設ニ依リ救療上遺憾ナカラシコトヲ努メタリ。本事業ノ實施ニ當リテハ前年度同様成ル可ク既設ノ醫療機關ヲ利用シ、財團濟生會其ノ他ノ醫療並ニ救療團體ノ活動協力ニ俟テ、從テ救護ハ委託診療ニ依ルモノ多ク之ヲ爲シ得ザル地方ニハ出張診療又ハ巡回診療等適當ノ方法ヲ採リ、

道府縣ニ於テハ地方ノ實情ニ徴シ道府縣自ラ行フモノト、恩賜濟生會ヲ通シ發行スモノト爲ラズ或ハ此ノ兩者ヲ併セ行ヒ或ハ何レカ一方ノミニヨリテ行ヒタリ。何レノ方法タルヲ問はず診療ハ多クハ府縣ニ於テ委託、出張及巡回ニ三途ヲ適宜分配スル行ヒタリ。

委託診療ニ於テハ地方醫師會、齒科醫師會等ト連絡協調シテ開業醫師ニ診療ヲ委託シ、道府縣ハ恩賜救療券ヲ發行シ之ヲ市町村又ハ警察署等ニ配付セリ。市町村又ハ警察署ニ於テハ多クハ要救療者名簿ヲ作製シ必要ナル患者ニ對シテ右救療券ヲ交付シ患者ハ自由ニ開業醫師ヲ選擇シテ診療ヲ受ケシム。又入院手術等ヲ要スルモノニ對シテハ夫々特別診療券ヲ發給シテ治病上遺憾ナキヲ期シタリ、又地方ニヨリテハ特ニ開眼手術等ヲ施シテ盲人救護ヲモ努メタリ。出張診療ニテハ市町村ハ開業醫師ハ市町村ニ對シ隣接町村ノ醫師ヲ出張セシメ一定ノ日時(多クハ一ヶ月五、六回)ヲ定メ診療ニ從事セシメ、巡回診療ハ開業醫師ナキ遠隔僻陋ノ地ニ對スル施設ニシテ多クハ府縣直接之ヲ行ヒ診療班ヲ組織シ班員數回日時ヲ定メテ一定村落ヲ巡回シ救療ヲ行ヒタリ。

本事業ハ、畏クモ皇室ヨリ特別ノ恩召ヲ以テ下賜アラセラレタル御内帑金ヲ中心トシテ施設セラレタルモノニシテ恰モ經濟界ノ不況ニ伴ヒ醫藥給セザル無告ノ窮民激増セルノ秋ナリシ爲メ本施設三ヶ年ヲ通ジテ其ノ成績ハ極大ニ顯著ニシテ國民一般ヨリ多大ノ感謝感激ヲ受ケソノ生活上ニモ思想善導上ニモ少カラザル好影響ヲ與ヘタリ。

第一一 本年度ニ於ケル醫療救護費

一、御下賜金並國費配當額

御下賜金並國費ハ從前通り上半期及下半期ノ二期ニ分チテ配當シタリ。尙本年度ニ於テハ下半期ニ至リ冷害、早害、風水害等ノ災害頻發シ要救療者ノ増加ヲ來シタル爲之ニ對處スベク臨時議會ニ於テ協賛ヲ經タル三十萬圓ノ追加配當ヲ行ヒタリ。

配當ニ當リテハ要救療者ノ分布、醫療機關ノ有無、農漁山村ノ狀勢等ニ深甚ナル考慮ヲ拂ヒ、且道府縣ノ希望ニ基キ道府縣ニ於テ直接行フ施設ト、恩賜濟生會ヲ通ジテ行フ施設トニ區別シテ左表ノ如ク之ヲ交付セリ。

道府縣	道府縣ニ直接配當シタル額		恩賜濟生會ヲ通ジテ配當シタル額		合計		同上ノ内(國費)
	御下賜金	國費	御下賜金	國費	御下賜金	國費	
北海道	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
東北	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
東京	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
大阪	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
京都	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
神奈川	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
兵庫	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
長崎	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
新潟	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
埼玉	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
群馬	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
千葉	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
茨城	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
栃木	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
奈良	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
三重	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
愛知	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
靜岡	10,000	3,000	10,000	3,000	20,000	3,000	
合計	100,000	30,000	100,000	30,000	200,000	30,000	

府縣	府縣ニ直接配當シタル額			財團 濟生會ヲ通シテ配當シタル額			合計		
	御下賜金	國費	計	御下賜金	國費	計	御下賜金	國費	計
山梨	12,500	10,500	23,000	5,000	5,000	10,000	17,500	15,500	33,000
岐阜	12,000	10,000	22,000	5,000	5,000	10,000	17,000	15,000	32,000
長野	12,000	10,000	22,000	5,000	5,000	10,000	17,000	15,000	32,000
宮城	12,000	10,000	22,000	5,000	5,000	10,000	17,000	15,000	32,000
關東	12,000	10,000	22,000	5,000	5,000	10,000	17,000	15,000	32,000
山形	12,000	10,000	22,000	5,000	5,000	10,000	17,000	15,000	32,000
青森	12,000	10,000	22,000	5,000	5,000	10,000	17,000	15,000	32,000
岩手	12,000	10,000	22,000	5,000	5,000	10,000	17,000	15,000	32,000
秋田	12,000	10,000	22,000	5,000	5,000	10,000	17,000	15,000	32,000
山梨	12,000	10,000	22,000	5,000	5,000	10,000	17,000	15,000	32,000
石川	12,000	10,000	22,000	5,000	5,000	10,000	17,000	15,000	32,000
富山	12,000	10,000	22,000	5,000	5,000	10,000	17,000	15,000	32,000
島根	12,000	10,000	22,000	5,000	5,000	10,000	17,000	15,000	32,000
岡山	12,000	10,000	22,000	5,000	5,000	10,000	17,000	15,000	32,000
廣島	12,000	10,000	22,000	5,000	5,000	10,000	17,000	15,000	32,000
山口	12,000	10,000	22,000	5,000	5,000	10,000	17,000	15,000	32,000
徳島	12,000	10,000	22,000	5,000	5,000	10,000	17,000	15,000	32,000
香川	12,000	10,000	22,000	5,000	5,000	10,000	17,000	15,000	32,000
合計	11,200	10,000	21,200	5,000	5,000	10,000	16,200	14,000	30,200



府縣	御下賜金	國費	計	同上人口百人當リ	人
愛知	12,000	10,000	22,000	10,000	1,000,000
高知	12,000	10,000	22,000	10,000	1,000,000
福岡	12,000	10,000	22,000	10,000	1,000,000
大分	12,000	10,000	22,000	10,000	1,000,000
佐賀	12,000	10,000	22,000	10,000	1,000,000
熊本	12,000	10,000	22,000	10,000	1,000,000
鹿兒	12,000	10,000	22,000	10,000	1,000,000
神戶	12,000	10,000	22,000	10,000	1,000,000
合計	11,200	10,000	21,200	10,000	1,000,000

醫療救護費ノ人口ニ對スル配當率ヲ參考ノ爲算出スル左表ノ如シ
 御下賜金及國庫支出ノ醫療救護費配當表 (人口百人當リ)

府縣	醫療救護費	同上人口百人當リ	人
北海	12,000	10,000	1,000,000
青森	12,000	10,000	1,000,000
岩手	12,000	10,000	1,000,000
宮城	12,000	10,000	1,000,000
秋田	12,000	10,000	1,000,000
山形	12,000	10,000	1,000,000
福島	12,000	10,000	1,000,000
茨城	12,000	10,000	1,000,000
栃木	12,000	10,000	1,000,000
合計	11,200	10,000	1,000,000

山梨	長野	岐阜	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	岡山	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿島	神奈川	沖縄	合計																	
1,200,000	1,500,000	1,800,000	2,000,000	2,200,000	2,400,000	2,600,000	2,800,000	3,000,000	3,200,000	3,400,000	3,600,000	3,800,000	4,000,000	4,200,000	4,400,000	4,600,000	4,800,000	5,000,000	5,200,000	5,400,000	5,600,000	5,800,000	6,000,000	6,200,000	6,400,000	6,600,000	6,800,000	7,000,000	7,200,000	7,400,000	7,600,000	7,800,000	8,000,000	8,200,000	8,400,000	8,600,000	8,800,000	9,000,000	9,200,000	9,400,000	9,600,000	9,800,000	10,000,000
1,200,000	1,500,000	1,800,000	2,000,000	2,200,000	2,400,000	2,600,000	2,800,000	3,000,000	3,200,000	3,400,000	3,600,000	3,800,000	4,000,000	4,200,000	4,400,000	4,600,000	4,800,000	5,000,000	5,200,000	5,400,000	5,600,000	5,800,000	6,000,000	6,200,000	6,400,000	6,600,000	6,800,000	7,000,000	7,200,000	7,400,000	7,600,000	7,800,000	8,000,000	8,200,000	8,400,000	8,600,000	8,800,000	9,000,000	9,200,000	9,400,000	9,600,000	9,800,000	10,000,000

備考 一、東北六縣(青森、岩手、宮城、秋田、山形及福島縣)ノ醫療救護費配當額合計四六七、六九五圓ニシテ同上人口百人ニツキ六圓七、七錢ニ當ル。其ノ他ノ府縣ニ對スル配當額合計二、三三三、三〇五圓ニシテ同上人口百人ニツキ三圓六、四錢ニ當リ全國總計二百七十萬圓ニシテ、人口六、八〇〇、〇〇〇人ニツキ三圓九、六錢ニ當ル。

二、道府縣支出豫算額

本事業ニ對シ道府縣費ヲ賦出シ御下賜金及國費ト合セテ其ノ充實ヲ期シタル地方抄カラズ。昭和九年度ニ於ケル豫算額ヲ示セバ左ノ如シ。

一、比率ニ用ヒタル人口ハ昭和九年十月一日現在ノ推計人口ナリ

醫療救護費應府縣支出豫算額

北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	合計
6,000,000	4,467,000	1,000,000	1,468,000	1,100,000	1,467,000	1,100,000	1,100,000	4,050,000
6,000,000	4,467,000	1,000,000	1,468,000	1,100,000	1,467,000	1,100,000	1,100,000	4,050,000

第三 醫療救護成績總括

一、診療施設別患者數及治療日數

本年度ニ於ケル醫療救護取扱患者ノ總數ハ九十七萬四千二十二ニシテ其ノ治療延日數一千五百五十五萬一千六百二十二ニ達ス。

シ、患者一人ニ對スル治療日數平均十一日九分ニ當レリ。右ノ内道府縣ニ於テ直接行ヒタル施設ニヨル診療患者實數五十四萬九千三百十五人ニシテ、財團濟生會ヲ通ジテ行ヒタル施設ニヨル患者實數ハ四十二萬四千七百七人ヲ算ス。

施設別ニ據ル患者診療數ヲ見ルニ委託診療ニヨルモノハ總計四十一萬四千八百五十四人ニシテ出張診療ニヨル患者實數十五萬一千五百十四人、巡回診療ニヨルモノハ三十四萬四千五十一人ニ達シ、其他ニ據ルモノ即チ地方ノ實情ニ應ジ助産、救急箱或ハ治療上必要ナル栄養品ノ配給等ヲ行ヒタル數ハ六萬三千六百三人ニ及ベリ。

道府縣ニテ直接行ヒタル施設ニ於テハ委託診療ニヨル患者十五萬五千五百五十九人、出張診療ニヨルモノ十萬八千六百九十九人ニシテ巡回診療ニヨルモノ二十八萬一千一百一十一人、其他ニヨルモノ九千四百六十六人ニ達シ、財團濟生會ヲ通ジテ行ヒタル施設ニ於テ委託診療ニヨル患者二十六萬四千二百九十五人、出張診療ニヨル患者四萬二千八百五十五人、巡回診療ニヨルモノ六萬三千四百八十八人、其他ニヨルモノ五萬四千五百五十七人ナリ。

今總患者數ニ就テ外來往診及入院別患者數ヲ觀ルニ外來患者ハ九十萬二千八百八十四人ニシテ其ノ治療日數ハ一千三百三十一萬六千四百五十七日ニ達シ一人當リ平均治療日數ハ十一日四分ニ相當シ往診ニ於テハ患者總數五萬二千三百五人治療日數七十五萬五千九百二十六日ニシテ患者一人當リ十四日五分ノ平均治療日數トナル、更ニ入院患者ニ見ルニ其ノ總數一萬八千八百三十三人ニシテ治療日數四十七萬九千二百三十九日ニ達シ一人當リ平均治療日數二十五日四分ニ當レリ。

昭和九年度ニ於ケル醫療救護取扱患者數及治療日數ノ總括ハ左ニ示セルガ如クニシテ、之レガ道府縣別調ハ別ニ醫療救護ニ關スル階表ニ揭示セリ。

道府縣	患者數	治療日數	平均一患者ノ治療日數
北海道	1,100,000	10,000,000	9.1
東北	1,200,000	11,000,000	9.2
關東	1,300,000	12,000,000	9.3
關西	1,400,000	13,000,000	9.4
四國	1,500,000	14,000,000	9.5
九州	1,600,000	15,000,000	9.6
合計	7,100,000	65,000,000	9.2

昭和九年度醫療救護取扱患者數及治療日數

種別	道府縣ニテ直接行ヒタル施設		財團濟生會ヲ通ジテ行ヒタル施設		總計	平均一患者ノ治療日數
	患者數	治療日數	患者數	治療日數		
委託診療	入院	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	10.0
	往診	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	10.0
	外來	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	10.0
出張診療	入院	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	10.0
	往診	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	10.0
	外來	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	10.0
巡回診療	入院	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	10.0
	往診	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	10.0
	外來	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	10.0
其他	入院	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	10.0
	往診	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	10.0
	外來	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	10.0
合計	入院	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	10.0
	往診	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	10.0
	外來	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	10.0

二、醫療救護取扱患者年齢別

本救護ニヨル取扱患者總數九十七萬四千二十二ノ内男子ハ四十七萬三千七百六十三人ニシテ女子ハ五十一萬二千五百五十九人ニシテ二十歳以上ノ年齢級ニ於テハ何レモ女子ニ於テ受診者多ク、十歳未満ノ兒童幼年及乳兒ニ於テハ女子ヨリ男子ニ多シ。

昭和九年度醫療救護取扱患者年齢別

年齢	男	女	計	年齢別	男	女	計
一歳未満	一一、一五二	一〇、八九九	二二、〇五一	三十歳以上四十歳未満	六〇、〇四五	七一、八八八	一三二、九三三
一歳以上五歳未満	五〇、三〇六	四五、四七八	九五、七八四	四十歳以上五十歳未満	五九、八七七	六六、五二八	一二六、四〇五
五歳以上十歳未満	四五、六七四	四二、八八五	八八、五五九	五十歳以上六十歳未満	五二、七六六	五八、三三三	一一〇、〇九九
十歳以上十五歳未満	四九、九五〇	五〇、四三一	一〇〇、三八一	六十歳以上七十歳未満	四九、八七七	五五、八三一	一〇五、七〇八
十五歳以上二十歳未満	三九、二四三	三七、二九六	七六、五三九	七十歳以上八十歳未満	六六、五	五五、八三一	一二二、三三三
二十歳以上三十歳未満	五五、二〇八	六〇、二七二	一一五、四八〇	八十歳以上九十歳未満	四七、七六三	四一、八	八九、五六一
合計	三、一〇、四三三	三、一〇、四三三	六、二〇、八六六	九十歳以上	一五、〇〇三	一五、〇〇三	三〇、〇〇六

三、本施設ニ於テ取扱ハレタル疾病

本年度中ニ取扱ハレタル主要ナル疾病ト受療患者數トヲ列記スルハ左ノ如シ。

疾病名	患者数	前年度	増減
眼耳及其ノ附屬器ノ疾患	三三二、八六三	二八二、〇〇〇	五〇、八六三
消化器ノ疾患(下痢、腸炎、胃腸ノ潰瘍及蟲様突起炎、肝臓疾患等ヲ除ク)	二二四、六五九	一九〇、〇〇〇	三四、六五九
神経系ノ疾患	六四、五八七	五〇、〇〇〇	一四、五八七
氣管支炎	六〇、二八五	五〇、〇〇〇	一〇、二八五
皮膚及皮下結締組織ノ疾患	五〇、一六六	四〇、〇〇〇	一〇、一六六
呼吸器ノ疾患(氣管支炎、肺炎、肋膜炎、結核等ヲ除ク)	四八、七六四	四〇、〇〇〇	八、七六四
下痢及腸炎(二歳未満モ含ム)	四五、一一二	四〇、〇〇〇	五、一一二
呼吸器結核	三三、七二八	三〇、〇〇〇	三、七二八
不慮ノ傷害	三三、〇四三	三〇、〇〇〇	三、〇四三
肋膜炎	三〇、八一八	二八、〇〇〇	二、八一八
胃及十二指腸ノ潰瘍	二六、一五七	二四、〇〇〇	二、一五七

流行性感胃

ツイタミン缺乏症

肺炎

慢性レウマチス及痛風

骨及運動器ノ疾患(結核性及レウマチス性ヲ除ク)

腎臓炎

寄生原蟲及寄生蠕蟲ニヨル疾患(花柳病ヲ除ク)

急性關節レウマチス

呼吸器以外ノ結核

微毒

慢性心臓内膜炎及心臓瓣膜ノ障害
 動脈硬化(冠狀動脈ヲ除ク)及壞疽
 脳出血、脳栓塞及腦血栓
 痛其ノ他ノ悪性腫瘍

第四 道府縣ニ於ケル醫療救護實施概況

道府縣ヨリノ報告概況左ノ如シ

京都府

実施ノ概況

本府ニ於テハ昭和七年十月本施設實施以來同一方針ヲ以テ京都市ヲ除ク二百三十二ヶ町村全部ニ亘リ、疾病ノ爲困窮セル者ノ救療費全額ヲ支給シ、村内ニ開業醫ナク出張診療所モナク、且醫師トノ距離一里以上ヲ隔ツル二十九ヶ町村ニ對シテハ、隣接町村ノ醫師ヲシテ出張診療セシメテ出張手当ヲ支給スル等、醫療保護ヲ徹底シテ期シタリ。之ガ地方ニ及ボセル影響ヲ顧ミルニ山來本府管内ニハ交通ノ便極メテ悪キ村落多ク、醫療上ニ多大ノ不便アリテ一度醫師ヲ迎ヘンカ、多額ノ車馬賃ヲ要スルヲ以テ中産以下ノ人々ニアリテハ其ノ負擔ニ堪ヘズ、病床ニ呻吟シツ、モ醫療ヲ受クルコト能ハザル實狀ニアリ。曩ニ昭和七年ニ調査セル要救療患者實數一萬三千五百餘人ナリシヲ昭和九年度ニ於テハ本施設ニ依リ外來患者一萬三千三百八十一人往診患者二百八十二人入院患者三十七人合計一萬三千七百七人ヲ救療シタルヲ以テ貧困患者ノ全部ヲ完全ニ救療スルコトヲ得聖恩御仁慈ノ優渥ナルニ一同感泣シツ、アル次第ナリ。

大阪府

實施ノ概況

昭和九年度ニ於テハ左記ノ通御下賜金並國費ノ配當ヲ受ケタルヲ以テ、之ヲ主タル財源トシテ農山漁村ニ於ケル救療ヲ實施セリ。

記

財團濟生會大阪府ニ委託ノ分

御下賜金 二五、九七四圓
 國費 二六、九七五圓
 前年度繰越金 三圓一六錢

日本赤十字社大阪支部委託ノ分

御下賜金 八、九〇〇圓
 國費 一二、三五八圓
 計 二一、二五八圓

而シテ之カ實施ニ當リテハ府下醫師ナキ町村中二十二ヶ町村ニ出張診療所ヲ設置シ財團濟生會大阪府ニ於テ四班日本赤十字社大阪支部ニ於テ三班計七班ノ診療班ヲシテ毎週二日宛各診療所ニ出張診療セシムルモノニシテ外ニ財團濟生會ニ於テ、地方開業醫ハ診療委託ノ方法ニ依リ診療事業ヲ施行シタル外風水害ニ依ル多數罹災傷病者ニ對シテハ本府ハ直接ニ財團濟生會ニ於テ國庫ヨリノ追加配當金五、〇〇〇圓、府ノ風水害補助金一〇、〇〇〇圓トヲ合シ夫々増班シテ之ガ救療ニ當リタルヲ以テ、是等患者ハ聖恩ノ鴻大ニ感泣シツ、アリ。風水害ニ依ル救療成績左ニ參照セン。

大阪府醫療救護班成績表 (自九月二十一日至十一月三十日)

市 區 郡 別	救護人員	班 數	科 名				性 別	重	症	輕	合 計	配 置 場 所
			内 科	外 科	内 科	外 科						
此 花 區	七、三七一	一八三	女	男	女	男				二、九二六	朝日橋警察署、秀野町、櫻島北之町、恩貴島町、四真島幼稚園、鶴之宮、櫻島小学校	
東 區	一	一	女	男	女	男				二、九二六	朝日橋警察署、秀野町、櫻島北之町、恩貴島町、四真島幼稚園、鶴之宮、櫻島小学校	

市 區 郡 別	救護人員	班 數	科 名		性 別	重	症	輕	合 計	配 置 場 所
			內 科	外 科						
堺 市	四、五九一	一二六	內科	外科	女 男 女 男		一〇三	四、三〇二	四、四〇五	堺商業學校、出島町、錦西小學校、鐵砲町
三 島 郡	二、二一一	七六	內科	外科	女 男 女 男		一八一	八九三	一、〇七四	茨木女學校、岸部村
豊 能 郡	一〇四	五	內科	外科	女 男 女 男		一	七二	八三	大井田、河原田、河原田
泉 北 郡	六七	二	內科	外科	女 男 女 男		二	一八	二〇	濱寺町
中 河 内 郡	一、四七一	六九	內科	外科	女 男 女 男		六	二七	三三	布施町、高井田村、天美村、彌刀村、四小學校
合 計	一〇、四七二	三三六	內科	外科	女 男 女 男		一〇三	一、〇七四	一、〇七四	

市 區 郡 別	救護人員	班 數	科 名		性 別	重	症	輕	合 計	備 考
			內 科	外 科						
北 河 内 郡	七、三〇一	一四三	內科	外科	女 男 女 男		一八一	三、〇六七	二、三四八	(九月廿一日、廿五日) 大和田村、牧野村、川越村、水本村、三郷村、二六、四四、林内村、河原田、河原田
合 計	四四、七一一	一、四一九	內科	外科	女 男 女 男		一八六	五、九〇七	六、〇九三	(九月廿一日、廿五日) 大和田村、牧野村、川越村、水本村、三郷村、二六、四四、林内村、河原田、河原田

各種團體別醫療救護成績表 (自九月二十一日至十一月三十日)

市 區 郡 別	救護人員	班 數	科 名		性 別	重	症	輕	合 計	備 考
			內 科	外 科						
大 阪 府	四四、七一五	一、四一九	內科	外科	女 男 女 男		二八六	五、九〇七	一六、〇九三	(九月廿一日、十一月卅日) 重症輕症ノ區別不明
大 阪 市	七六、九七二	一、二四九	內科	外科	女 男 女 男		一八六	五、九〇七	一六、〇九三	(九月廿一日、十一月卅日) 重症輕症ノ區別不明
堺 市	一、六四八	六四	內科	外科	女 男 女 男		一八六	五、九〇七	一六、〇九三	(九月廿一日、十一月卅日) 重症輕症ノ區別不明
合 計	一二三、三三五	二、七〇一	內科	外科	女 男 女 男		一八六	五、九〇七	一六、〇九三	

團體名	救護人員	班數	科名		性別		重症	症例	輕症	計數	備考
			內科	外科	女	男					
大阪帝國大學醫學部附屬病院	五、八三〇	五八	內科	外科	女	男		六八	二、七九二	六八八	(九月廿一日—十月六日) (九月廿一日—十月廿日) 重傷、瀕死、瀕死
日本赤十字支部	四九、三九一	五一七	內科	外科	女	男		二、七九二	二、八六六	二、八六六	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
恩賜濟生會大阪府病院	二、六六二	四四	內科	外科	女	男		二、七九二	二、七三三	二、七三三	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
大阪逓信局	五、三八七	一一九	內科	外科	女	男		二、七九二	二、六五九	二、六五九	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
第四師團軍醫部	一八、一八四	一六三	內科	外科	女	男		二、七九二	二、五五二	二、五五二	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
大阪市醫師會	八一六	一九	內科	外科	女	男		二、七九二	一、七〇〇	一、七〇〇	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
日本海員救濟會大阪病院	七三六	二二	內科	外科	女	男		二、七九二	一、五九二	一、五九二	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
財團日本生命濟生會附屬日生病院	八、九〇六	六三	內科	外科	女	男		二、七九二	一、四七〇	一、四七〇	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
財團弘濟會	五、八七六	二七	內科	外科	女	男		二、七九二	一、四二〇	一、四二〇	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
大阪中央病院	一、二五一	三六	內科	外科	女	男		二、七九二	一、三三〇	一、三三〇	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
大阪回生病院	五〇八	一一	外科		女	男		二、七九二	一、三三六	一、三三六	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)

團體名	救護人員	班數	科名		性別		重症	症例	輕症	計數	備考
			內科	外科	女	男					
大阪帝國大學醫學部附屬病院	五、八三〇	五八	內科	外科	女	男		六八	二、七九二	六八八	(九月廿一日—十月六日) (九月廿一日—十月廿日) 重傷、瀕死、瀕死
日本赤十字支部	四九、三九一	五一七	內科	外科	女	男		二、七九二	二、八六六	二、八六六	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
恩賜濟生會大阪府病院	二、六六二	四四	內科	外科	女	男		二、七九二	二、七三三	二、七三三	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
大阪逓信局	五、三八七	一一九	內科	外科	女	男		二、七九二	二、六五九	二、六五九	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
第四師團軍醫部	一八、一八四	一六三	內科	外科	女	男		二、七九二	二、五五二	二、五五二	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
大阪市醫師會	八一六	一九	內科	外科	女	男		二、七九二	一、七〇〇	一、七〇〇	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
日本海員救濟會大阪病院	七三六	二二	內科	外科	女	男		二、七九二	一、五九二	一、五九二	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
財團日本生命濟生會附屬日生病院	八、九〇六	六三	內科	外科	女	男		二、七九二	一、四七〇	一、四七〇	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
財團弘濟會	五、八七六	二七	內科	外科	女	男		二、七九二	一、四二〇	一、四二〇	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
大阪中央病院	一、二五一	三六	內科	外科	女	男		二、七九二	一、三三〇	一、三三〇	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)
大阪回生病院	五〇八	一一	外科		女	男		二、七九二	一、三三六	一、三三六	(九月廿一日—十月廿日) (九月廿一日—十月廿日)

團體名	救護人員	班數	科名		性別	重症	症輕	計	備考
			内科	外科					
財團 四天王寺施療病院	九九七	六	内科	外科	女	男	女	男	(九月廿一日—九月廿三日)
本派 本願寺北御堂診療所	九、四三〇	一二六	内科	外科	女	男	女	男	(九月廿五日—十月廿九日)
社團 日本救濟會	一、一八四	五〇	内科	外科	女	男	女	男	(九月廿一日—十月廿七日)
大阪朝日新聞社事業團	四、〇五四	二五	内科	外科	女	男	女	男	(九月廿四日—十月九日)
大阪毎日新聞社事業部	四、九二五	六〇	内科	外科	女	男	女	男	(九月廿一日—十月廿七日)

計	外科		内科		計
	男	女	男	女	
二四三、四七二	一、一五六	一、一五六	一、一五六	一、一五六	二、二一二
三、八七七	一、一五六	一、一五六	一、一五六	一、一五六	二、二一二
	一、一五六	一、一五六	一、一五六	一、一五六	二、二一二
	一、一五六	一、一五六	一、一五六	一、一五六	二、二一二
	一、一五六	一、一五六	一、一五六	一、一五六	二、二一二
	一、一五六	一、一五六	一、一五六	一、一五六	二、二一二
	一、一五六	一、一五六	一、一五六	一、一五六	二、二一二
	一、一五六	一、一五六	一、一五六	一、一五六	二、二一二
	一、一五六	一、一五六	一、一五六	一、一五六	二、二一二

備考 本表合計ニ於テ重症、輕症ノ數ト其ノ合計數ノ符合セサルハ大阪市、第四師團軍醫部及大阪毎日新聞社事業部ノ分ハ重症、輕症ノ區別ナキ爲
當該欄ニ記入セス合計欄ノミニ記入シタルニ因ル、第四師團軍醫部ノ分ハ外科内科ノ區別ナキ爲總テ外科ノ欄ニ掲記セリ
大阪毎日新聞社事業部ノ分ハ男女ノ區分ナキ爲總テ男トシテ計上セリ

神奈川縣

實施ノ概況

實施ニ際シテハ前年度通り内務省訓令並官通牒ノ趣旨ヲ體シ漏救ハ勿論亂救ノ絶無ヲ期シ委託診療、出張診療、巡回診療等
ノ附施設ヲ爲セリ。
本年度ニ於テハ本事業ノ趣旨全ク普及ヲ見ルニ至リ治療ヲ乞フ者意外ニ多ク爲ニ前半年度ニ於テ救療豫定人員ハ大半ヲ救療
スルノ實狀ナリ縣中央部ノ農漁村要救療者ノ爲比較的交通便ナル平塚市ニ常設出張診療所ヲ設ケ毎日診療ヲ爲セリ。
歳末ニ際シテハ恩賜濟生會各診療機關ヲ利用シ都市勞務者ニシテ夜間ノミ餘暇アル者ニ對シ歳末夜間診療ヲ施行セリ。
年度當初ニ於テハ昨年度ヨリ引續キ恩賜濟生會神奈川縣病院ニ於テ盲人開眼手術ヲ施行セリ。

其ノ他特記スベキ事項

疲弊困憊ノ極ニ在ル農山漁村ニ在リテハソノ細民ノ一旦病魔ニ襲ハル、ヤ服藥治療ノ途ナク遂ニ治癒ノ見込ヲ失ヒ再起シ能ハ
ザルノ悲惨ニ陥ルモノアリ然ルニ本事業ノ恩典ニ浴シ納稅ハ勿論精神的方面ニ良影響ヲ及ボシタルハ顯著ナル事實ニシテ縣内
中郡豊田村ノ一老人ハ四十有餘年來眼疾ニ苦シミ年經ルニ從ヒ益々惡化シ果ハ失明ニ陥ルヲ常ニ悲觀シ居タル處偶々村役場ヨ

リ醫療券ヲ交付セラレ平塚市出張診療所ニ於テ治療ヲ受ケ、全治セル爲聖恩ニ感激シ村内同病者ヲ爲進シ種々盡力ヲ所アリタリ。右ノ如キハ單ニ一例ニ過ギザルモ本事業ニ依リ救療ヲ受ケタル者ハ等シク聖恩ニ感激シ銳意報公ウ誠ヲ至サシトテ期シ居ル處ニシテ各町村長ノ等シク具申スル處ナリ。

實施ノ概況

一、巡回診療

醫師ナキ町村又ハ醫療普及完カラザル二十六ヶ町村ニ對シ毎月二回以上縣ヨリ巡回診療班ヲ派遣シ巡回診療ヲ行フ半マ地獄(巡回診療班四班一班ノ組織、衛生技師、衛生技手各一名)

二、簡易診療所出張診療

醫師ナキ町村及醫療普及完カラザル隣接數ヶ町村ヲ區域トシ一定場所ニ縣ノ職員タル醫師ヲ駐在セシメ其區域内ヲ更ニ區分シ毎月五回乃至十回宛各所ヲ巡回診療セシム。(簡易診療所數四ヶ所、受持町村數十九ヶ町村、診療所ノ組織 衛生技師、藥局員各一名)

三、囑託醫出張診療

前項ノ地方中土地ノ狀況ニ依リ近接町村在住醫師ヲ囑託シ定期的ニ五日乃至七日毎ニ出張診療セシム。(囑託醫二十六名 受持町村二十六ヶ町村)

四、一般委託診療

醫師ノ在住スル市町村ニ對シテハ地方ノ公私立病院、開業醫師ニ委託シテ診療券、入院券等ニ依リ診療ヲ爲サシム。應ジテ閉局藥劑師ニ委託投藥セシム。

受持町村	受持町村數	巡回診療班	巡回診療班數	巡回診療班員數	巡回診療班員種別
...

本縣ニ於テハ昭和三年御大典記念事業トシテ庶民階級ノ救療ヲ目的トシテ計劃ノ計ニ篤志家ヨリ受付タル寄附金五十五萬圓ヲ基本トシ庶民病院巡回診療班ヲ組織シ昭和七年八月ヨリ縣下ノ醫師ナキ町村又ハ醫療普及完カラザル地方ノ住民ニ對シ巡回診療ヲ行ヒ一面醫師アル地方ニ對シ委託診療ヲ施行シ恩賜救療ト協力シテ救療ノ普及貫徹ヲ期シツ、アリ。其ノ他特記スベキ事項、恩賜救療事業ガ昭和九年度ヲ以テ打切ラルベキ暫定的施設ナルヲ愛ハ本廳ニ其繼續ヲ請願シ來ル町村公費三十有餘ニ及リ左ニ其ノ請願書二三ヲ摘記スベシ。

第一、陳情書

昭和七年拾月恩賜救療施設敷カル、ヤ縣當局ニ置カレテハ本村並隣接芳田村多可郡野間谷村ガ從來醫療ノ途ニ恵マレザルヲ思ハレ縣下僅ニ限ラレタル恩賜簡易診療所ヲ隣接野間谷村ニ設置サレソノ恩典ニ浴セシマラル。由來本村ハ山間避阪ノ土地ニシテ文化ノ惠澤ニ浴セザル不便ノ土地ニシテ從來醫師所在地迄ハ險坂ヲ越テ三里餘ニテ病床ニ呻吟シツ、モ容易ニ醫療ヲ受クル能ハザル状態ナリシニ恩賜診療所ヲ設置セラレ村民一般ハ聖恩ヲ有難クニ感激シ居ル次第ニ有之候。爾來二ケ年關係三ヶ村民ニシテ施設ヲ受ケタル者實ニ二千五百名ニ達シ之ニ依リテ天授以生命ヲ保テ元氣回復シテ職ニ安シ得タルモノ其ノ數知レズ村民何レモ聖恩ノ無窮ニ感激シ聖代ノ施設ニ唯々感激シ居ル次第ニ御座候。本村並隣接村民安住シ得ル爲ノ最モ重要ナル施設トシテ必要缺クベカラザルモ右ノ状態ニテ恩賜多可簡易診療所ヲ存置ハ本村並隣接村民安住縣當局ニ於カレテハ現下諸種ノ經費御多端ナル事ト存候得共尙幸當地方住民ノ仰望ヲ諒シテ形萬難ヲ排シテ恩賜多可簡易診療所ヲ引續キ存置セラレ度茲ニ村民一同ヲ代表シ謹テ陳情願申上候。

和和九年十月十五日

第二、巡回診療繼續請願書

加西郡大和村長代理助役 上 田 鶴 治

本村ハ北但ノ東北隅ニ遍在スル僻村ニシテ村ノ中央ヲ圓山川貫流シ西岸ニ在ル部落ハ縣道ニ面スルモ東岸ニ在ル部落ハ巾負百數十間ニ及ブ圓山川ノ爲車馬ノ便ナク、殊ニ冬季積雪數尺ニ及ベバ殆ンド交通途絶スルノ狀況ニシテ一朝急病者アル場合ノ如ク之ガ救療方法ニ關シ村民常ニ困却シツ、アル狀況ニシテ戸數漸ク貳百八十餘戸ヲ寒村ニシテ村ニ一名以開業醫師及産婆無ク、平時急救療法トシテハ僅カニ置キ替人ノ賣藥ニ依リテ應急策ヲ講ジツル位ニシテ巡回診療トシテ縣醫師ノ弊村出張ニ依リ其ノ惠澤ニ浴スル者年内ニハ延人員三百數十名ニモ及ビ社會政策トシテ巡回診療ニ對シ多大ニ感謝ヲ捧グツ、アルノ時、本年度限り該地方ヲ打切ラル、趣承リ村民一般晴天ノ霹靂トシテ痛嘆スル所ニ有之候サリトテ診療所ノ建設ニ至リテハ例令相當ノ補助アルモ戸數貳百八十餘戸ノ貧弱村トシテハ到底其ノ負擔ニ耐ザル所ニ非ザル現狀ニ有之候條是非該診療施設ヲ昭和十年度以降ニ於テモ繼續實施有之度村ノ地理上及經濟上ノ事情ヲ具陳シ嘆願仕候條何卒特別御詮議有之度奉願候也。

昭和九年拾壹月八日

城崎郡内川村長 横 田 敏 雄

第三、恩賜簡易診療所設置繼續存置ニ關スル嘆願書

現下我國ノ財界ノ不況ハ日ヲ逐テ深刻トナリ農山漁村ノ住民ノ窮狀ハ眞ニ見ルニ忍ビザルモノゾ以爲ニ疾病ニ冒サルニモ容易ニ醫療ヲ受ク能ハズ往々其ノ天壽ヲ全ウスルヲ得ザル者アルノミナラズ一人ノ疾病ハ更ニ其ノ家族ノ勤勞ヲ妨グ延イテハ老幼ヲシテ飢餓ニ瀕セシムルモノアルハ寔ニ憂慮ニ堪ヘザル所ナリ。此ノ時ニ際シ畏キ邊ニ於カセラレテハ窮民ノ醫療救護ニ關シ特ニ御軫念アラセラレ若生愛撫ノ優渥ナル思召ニ依リ御内帑金下賜ノ御沙汰ヲ拜スルニ至リタルハ國民ノ齊シク恐懼感激措ク能ハザル所ナリ、政府ニ於テモ此以御仁慈ヲ聖旨ヲ奉戴シ

國庫ヨリ救療費ヲ支出シ併セテ之ヲ各府縣ニ配當シ昭和七年ヨリ參次年ヲ以テ二期計劃トシ全國ニ齊ニ救療施設ヲナサシメ本縣下ニ於テモ醫師常在セズ又ハ醫師常在スルモ醫療全カラザル地方ニ對シテハ恩賜簡易診療所ヲ設ケラレ此醫師ノ常在診療並ニ出張診療ヲ受ケシメツ、アリ誠ニ關係町村民ノ齊シク御聖恩ニ感泣セザルモノナラキ状態ナリ、今茲第二期計劃以終了ヲ目睫ニ迎ヘ萬一之ガ計劃ヲ以テ打切ラル、場合ハ年來洪水無邊ノ皇澤ニ浴シツ、不ツシ住民ノ醫療以途全ク絶ヘ眞ニ憂慮ニ堪ヘザルモノアリ、偶過般襲來セシ風水害ニヨリ民力益々疲弊困憊其ノ極ニアル時、之ガ醫療完備ノ繼續ヲ願フモノ多キ此ノ際萬難ヲ廢シ何卒之ガ施設ノ途ヲ講ゼラレン事ヲ茲ニ關係町村長連署ノ上謹ミテ嘆願候也。

昭和九年十一月

兵庫縣津名郡大町村長 飼 手 國吉太郎

鹽田村長 西 儀 一郎

生穂町長 大 川 平 二郎

寺西町長 西 秀 太郎

谷津高次郎

安平村長 太 田 篤 興

第四、陳 情 書

現下我國財界ノ不況ハ日ヲ逐テ愈深刻トナリ就中農山村ノ疲弊困憊ハ其ノ極ニ達シ其ノ窮狀寔ニ忍ビザルモノ有之候條、本年度春蠶ノ安價ニ加ヘ稻作ニ於テモ其ノ作柄不良ニシテ平生作ノ約三割ノ減收ヲ豫想シ憂慮致シ居候折柄道般未曾有ノ風水害ニ依リ耕地農作物等ノ被害甚大ニシテ將來ノ生活上不安ニ戰キ居ル状態ニ有之候。

目下本町村ノ状態ヨリシテ最モ憂慮ニ堪ヘザルハ疾病ニ侵サレ完全ナル醫療ヲ受ケル能ハザル細民ノ救療施設ニシテ當町村ノ如キ區域擴大ニシテ道路險惡交通極メテ不便ナル地域ニ於テハ、偶々疾病ニ侵サレハ、ト雖容易ニ診療ヲ受ケル不能爲ニ天壽ヲ全フスルコトヲ得ザル者アルハ、寔ニ痛恨ニ堪ヘザル次第ニシテ之ガ方策ニ苦慮罷在リ候、折柄先年長クモ若生愛撫ノ大御心ニ依リ特ニ御内帑金ヲ御下賜アラセラレ全國府縣ニ命ジテ恩賜救療ヲ實施セラル、ヤ本町村モ直接恩典ニ浴スルコトヲ得町村民一同恐懼感激措ク能ハズ、只管洪大無邊ナル皇澤ニ感泣シ爾來疾病ニ侵サレタル者以直ニ診療ヲ受ケ全治ノ喜ニ感泣シ現ニ健康ニテ活動スル者ハ萬一疾病ニ侵サル、モ直ニ完全ナル醫療ヲ受ケラル、ヲ以テ何等ノ憂モナク専念家業ニ従事致シ居ル状態ニ有之候、是偏ニ御仁慈ナル御聖旨ニヨルモノト深ク感激罷在候、

然ルニ仄聞スル所ニ依レバ本救療施設モ本年度限り廢止セラル、趣斯クテハ前陳農山村ノ状態ニテハ到底忍ビ能ハズハ有様ナレバ町村民ノ喪情御洞察ノ上尙今後引續キ存置セラル、様御配慮賜リ度茲ニ關係町村長連署及陳情候也、

昭和九年拾壹月拾九日

朝來郡生野町長 安 井 一 丞

朝來郡朝來郡山口村長 太 五 垣 岡 五 太郎

神崎郡長谷村長 蘆 田 耕 次

第五、附 願 書

本村ハ美方郡ノ西南端ニ位スル僻地ニシテ戸數僅カニ四百餘戶人口三千四百餘人ヲ有セシ最小村ナリ、僻地ニシテ而積一里平方ニシテ耕地狭少ナリ財政又困難ナルヲ以テ人生ノ最必要ナル衛生設備等不完備ナリ從而村醫亦常設せず、重患ニ際シテ數里ヨリ醫師ノ來診ヲ乞フ輕患者ハ不知ノ内ニ重患ニ陥リシ命ヲ失フ等ノ者頗ル多ク實ニ蕃地ニ等シキニ似御座候、幸ヒニシテ一昨年ヨリ恩賜巡回診療ノ御恩惠ニ浴シ村民齊シク蘇生ノ域ニ達シ徐々患者減少此ハ洪大ナル御恩惠ヲ報ヒントシ村民舉ツテ經濟更生ニ専念シツ、有之候、仄聞スルニ明年ヨリ巡回診療箇所ヲ減少セラレ、本村其ノ落伍者

タランカ全ク憂慮ニ絶エザル次第ニ御座候何卒本縣下一町村タリトモ繼續セラル、ニ於テハ本村ノ實情ヲ參酌セラレ繼續御恩惠ニ浴セシメラレ度茲ニ謹而奉請願候。恐惶頓首

昭和九年十一月三十日

長崎縣

實施ノ概況

昭和七年度ヨリ引續キ恩賜診療施設主體ハ縣トシ御下賜金並國庫配當金ヲ縣費ニ收入シ別紙恩賜診療ニ關スル訓令及恩賜診療要綱同取扱手續ニ依リ本事業ノ遂行ニ努力シ市、町、村、警察、官吏方面委員以區長、醫師、齒科醫師、産婆等ヲ督勵シ萬遺憾ナキヲ期シタリ。

備 考

昭和九年度ニ於ケル救療費御下賜金一九、六〇〇圓國庫配當金二五、二七九圓之ニ縣費三、三六九圓ヲ加ヘ計四六、九四八圓ナリ昭和十年度ニ於テハ國庫配當金上半期一四、四七五圓之ニ縣費二、〇六八圓ヲ加ヘ計一六、五四三圓ヲ以テ本事業ヲ繼續シ居レリ現在出張診療所九ヶ所出張診療醫二ヶ所

其ノ他特記スベキ事項

地方民ニ及ボシタル影響
 本診療事業ガ恩賜ニ基ク救療ナルヲ以テ之ガ恩澤ニ浴シタル者ハ聖恩ノ無窮ニ感泣シ特ニ出張診療所ヲ設置シタル僻陋村從來病魔ノ胃スコトアルモ醫療ノ途ナキ爲天命ヲ全フスルコト能ハズ醫療ヲ受ケル以テハ醫師一回ノ往診ニ數十圓ヲ要シタル爲直ニ貧困ニ陥ルガ如キ悲惨ナル事態ナカラザリシガ之等僻陋地ニ出張所ヲ設置シタル爲要救療者ハ勿論一般村民モ皇恩ノ厚キニ感泣シ居レリ。

挿話、佳話、美談等トモ稱スベキ一二ノ事例ヲ擧グレバ次ノ如シ。

右家族ハ老齡ノ兩親及右○郎ノ三人家族ニシテ○郎ノ日傭大工ニテ得タル僅少ナル收入ニ依リ一家ノ生計ヲ樹テ貧シキ生活ヲ爲シ居タルニ不幸ニシテ昭和九年一月頃ヨリ眼病(カタル性角膜潰瘍虹彩炎)ニ罹リタルモ貧困ニシテ醫師ノ治療ヲ受クル事不可能ナリシ爲寶藥ニ依リ治療ヲ爲シ居タルモ病勢益々惡化シ盲目ト成ル外ナシトシ非常ニ悲觀シ居タルニ、區長之ヲ見テ直ニ申出タルヲ以テ二月二十七日早速恩賜診療券ヲ交付シ眼科専門醫ノ診察ヲ受ケシメタルニ入院加療ヲ要ストノ事ナリシ以テ直チニ入院セシメタルニ四月三十日ヲ以テ全治退院スルヲ得タリ然ルニ退院ノ際ハ老母出頭シ一家ノ主働者盲目ト成リ以テ如何ニシテ將來生活スベキカヲ考ヘ非常ニ悲觀シ居タルニ恩賜診療ニ依リ全快再職業ニ従事スルヲ得皇恩ノ有難サニ深ク感激シタルヲ申述ベタリ。

南松浦郡若松村荒川郷 戸主辰○弟無職○小恩賜券○ニ關ス○聯合助願會
(明治二十七年生)

右ハ昭和九年二月十日縦隔竇腫瘍ノ疑ニ依リ加療中漸次容態惡化シ來リタル爲主治醫西村醫師ハ最親切ニ取扱ヒ、同年五月四日船便ヲ利用シ公立五島病院ニテレントゲン診察ノ結果大動脈病ト決定サレ同年六月二十九日迄引續キ西村醫師ノ手ヲヨリ加療漸ク輕快トナリタル者ナルガ到底勞働ニ堪ユベクモ非ズ身體ノ自由ナル内ニ長崎醫大ノ學用患者ニト申出同大學附屬病院ニ入院後旬日ヲ出デズシテ死亡ノ通知ニ接セリ本人ハ本事業ノ趣旨ニ痛心ヲ動カサレ何回トナク役場ニ訪レテハ聖恩ノ渥キニ感激ノ涙ヲ流シタルモ惜ムベシ。

新潟縣

實施ノ概況

縣内ニ住居ヲ有スル特別稅戶數割一戸平均額五分ノ一以下ノ賦課ヲ受クル者及生活困難ニテ特ニ事情己ムヲ得スト認ムル者ニ對シ左ノ施設ヲ爲ス

一、委託診療

縣立公私立病院、縣醫師會員、縣齒科醫師會員及縣藥劑師會員ニ委託シ診療ヲ爲ス事ニシテ之ガ經費ノ内甲種醫療券ニ對スル分ハ各市町村(出張診療實施村ヲ除ク)ニ豫算ヲ配當シ乙種醫療券ニ對スル分ハ本廳ニ留置クモ可トス
而シテ昭和九年度前半期ニ於ケル成績ニ徵シ更ニ趣旨ノ徹底ヲ圖ル必要ヲ認メ昭和九年九月下旬簡單ナルポスター八萬枚ヲ印刷シ各町村要救療者家庭ニ配布シ又ニ面市町村事務擔任者ニ規程並手續等指導ノ爲メ「恩賜委託診療に就て」ナル冊子ヲ各市町村ヘ配布シ其ノ他縣下數ヶ所ニ開催セラレタル方面委員協議會ニモ醫療救護ノ徹底ニ關シ協議シ同委員ノ活動ヲ促シ、或ハ係員ヲ町村ヘ派シ督勵シタル結果漸次利用者増加ヲ示シ殊ニ昨春來雪害水害冷害等ノ災害ニ依リ未會有ノ凶作トナリ農山村ノ窮乏深刻ヲ加ヘタルニ伴ヒ醫療救護ノ恩惠ヲ一層痛切ニ感ゼラル、ニ至リタル爲メ山間部ハ降雪早ク交通不便ナル地方比較的多キニ不拘相當ノ救療成績ヲ擧グルニトヲ得タリ

二、出張診療

縣下醫師ナキ町村百三十餘ノ内交通關係其ノ他ヲ考慮シ三十九ヶ村四十六ヶ所ニ出張診療所ヲ設ケ毎月三回乃至四回ツ、囑託醫及看護婦ヲ出張診療ニ従事セルモノニシテ藥品ハ全部縣ニ於テ購入シ各診療所ニ豫定送付シ置キ診療後ハ直ニ投藥ヲ爲シ得ル様設置シアリ

右診療當日餘裕アルトキハ規程該當者以外ノ一般患者ニ對シテモ診療及投藥ヲ爲シ少額ノ藥代ヲ縣ニ納付セシム
尙窮乏對策トシテ客年十二月ヨリ更ニ窮乏村ニ出張診療所ヲ六ヶ所増設シ又從來診療三回ナリシ診療所ノ内六ヶ所ヲ四回ニ増

加シ救療ノ充實ヲ計レリ

三、巡回診療委託實施

窮乏町村ノ内開業醫師ノ居住ナク且ツ出張診療等ノ實施ナキモノ又ハ醫師迄ノ距離遠隔若ハ降雪甚シキ爲醫療券ヲ容易ニ利用シ得ザルモノヨリ二十五ヶ村ヲ選定シ
財團濟生會新潟縣支部ニ委託シテ巡回診療ヲ實施セシメ、當テ常備藥ハ直ニ縣藥房ヨリ配給シ、家庭常備藥其ノ他配給

本縣ハ山間部ノ僻陬町村多ク各部落間ノ距離數里ニ及ブモノアリ一朝發病ノ際直ニ醫療ヲ受クルニ困難ノ場合不尠故ニ之等醫藥ニ恵マルザル貧困家庭ニ對シ救急用トシテ家庭常備藥十數種ヲ袋入トシ百六十三ヶ町村、三千六百五十餘戸ニ配給シタリ又瘧疾地方ニ於テハ粗食等ノ結果榮養不良ニ陥リ之ガ原因ニテ夜盲症患者多數發生シ徵治ルニ付之ガ治療用トシテ肝油ヲ購テ關係町村ヘ送付シ罹病者ニ配給セシメタリ

埴五縣

實施ノ概況

一、農山村巡回診療

イ、縣内開業醫ナキ一三九ヶ村中僻陬村三十四ヶ村ヲ選定シ之ヲ五班ニ分テ每週一回定期巡回診療ヲナス

ロ、囑託醫師看護婦各一名宛ヲ以テ組織ス

巡回村數並診療時間

- 第一班 六ヶ村
- 第二班 八ヶ村
- 第三班 六ヶ村
- 第四班 六ヶ村

第五班

八ヶ村
毎日午前九時ヨリ午後三時迄但一日二ヶ所ノ場合ハ午前九時ヨリ十二時迄午後一時ヨリ午後四時迄トス
實人員二一、六九八 延人員二〇〇、六四六

二、臨時巡回診療

イ、藪價慘落ニ依リ窮境ニ陥リタル農村救濟對策ノ一トシテ醫師ヲテ又定期巡回診療ナキ村六ヶ村ニ對シ七月八月ノ三ヶ月臨時巡回診療班一班ヲ派遣シ一週一回巡回ス
ロ、囑託醫師一名看護婦一名ヲ以テ組織ス
實人員七〇六 延人員一六、二二六

三、委託診療

イ、縣内開業醫師アル二三四ヶ市町村並ニ醫師ナキ村ニ對シテモ最寄ノ醫師ヲ利用スル趣旨ニ基キ委託診療トシ
治療券ヲ發行シ之カ救療ノ徹底ヲ圖レリ
ロ、十月ヨリ醫師ニ遠隔ノ地ニシテ容易ニ醫師ヲ招ク能ハズ又
○ヶ所ヲ選定シ救急藥ヲ常備セリ

栃木縣

實施ノ概況

本縣ニ於テハ縣カ直接行フ巡回診療出張診療及財團濟生會栃木縣ガ行フ委託診療ノ三方途ヨリ實施シタルモノニシテ其ノ概況左ノ通り

一、縣カ直接行フ施設

1 巡回診療

醫師、藥劑師、看護婦各一名、ヲ以テ組織シタル巡回診療班二班ヲ編成シ一日一ヶ村、順次巡回的ニ毎月四回以上巡回診療ヲ行フ、而シテ其ノ方法ハ縣ニ於テ發行ノ無料治療券ノ交付ヲ受ケタルモノハ其ノ診所ニ至リ治療券ヲ提示シテ治療ヲ受クルモノニシテ治療券ハ警察署長及町村長ヲシテ交付セシム診療施行ニ際シテハ各診所毎ニ縣ニ於テ藥品施術用器具ヲ備ヘ一定期日ニ縣ヨリ診療班ヲ出張セシメ其ノ場ニ於テ無料投薬並ニ施術シ得ルノ制度ヲ設ケ以テ患者ノ利便ヲ計リタルモノナリ

2 出張診療

縣醫師會ト協調ノ上同醫師會推薦ニ係ル開業醫師一ヶ村一名、出張診療醫ニ囑託シ毎年六回、一定ノ日時場所ニ出張セシメ診療ヲ行ハシム而シテ之ガ方法ハ縣ニ於テ發行ノ無料治療券ヲ交付ヲ受ケタルモノニシテ當日其ノ診所ニ至リ治療券ヲ提示シテ治療ヲ受クルモノニシテ之ガ交付ハ警察署長及町村長ナリ尙各診所ニハ擔當醫ヲシテ成ルベク藥品其ノ他ノ醫療器具ヲ設備セシメ直ニ投薬施術ヲ爲シ得ル様ナサシメタルモノナリ

二、^{恩賜}財團濟生會枋木縣ヲ通シテ行フ施設

本縣ニ於ケル^{恩賜}財團濟生會ノ救療ハ委託診療ニシテ縣下全般的ニ實施スルモノナリ縣内居住者ニシテ疾病傷痍ニ罹リ又ハ妊娠シタル者自ラ治療若クハ助産ヲ受クルノ者ナクシテ他ニ療養ノ途ナキ者ニ對シ縣ニ於テ發行ノ治療券其ノ他ヲ警察署長市町村長及方面常務委員ノ手ヲ經テ交付シ之ヲ縣内開業ノ醫師齒科醫師產婆又ハ藥劑師ニ提示シテ治療施術助産又ハ投薬ヲ受ケシム而シテ入院又ハ大手術ヲ要スル等相當經費ヲ要スル患者ニ對シテハ事前ニ報告シ知事ノ承認ヲ得ルヨリ爲メ等實施シタルモノナリ

其ノ他特記スベキ事項

^{恩賜}醫療救護ニ依ル救療患者ハ何レモ無資産ニシテ他ニ療養ノ途ナキモノニシテ常ニ疾病傷痍ニ罹リ居ルモ容易ニ醫療ヲ受クルコトヲ得ス空シク病苦ノ爲メニ呻吟シテ長ク業務ニ就クコト能ハサルモノ又ハ辛シク勞務ニ堪ヘ得ルモ醫療ヲ受クルコト

ト能ハザル爲メ容易ニ快復シ得ヘキ疾患モ不幸ニシテ病勢益々重カラシメ往々ニシテ其ノ天壽ヲ完フスルコトヲ得ザルモノ又ハ一人ノ疾病ハ更ニ他ノ勤勞ヲ妨ケ延テハ老弱ヲ飢餓ニ瀕セシムル等相當悲惨ノ狀況有之ニ鑑ミ極力之ヲ調査スル救療ニ當リタル結果之ガ救療ヲ受ケタル患者並ニ其ノ家族ハ勿論一般社會民衆モ聖恩ノ鴻大ナルニ感泣シテ、其ノ事例ハ、ニニヲ舉グレバ左ノ如シ

戶主 ○ 長男 ○ 長男

鹽谷郡船生村

林

當十八年

右者一家ハ肩胛地ニ於テ荷馬車挽ヲ業トシ辛シク生活シ居レリ家族ハ實母トシ長男○當十八年ノ三人ニテ本年一月二十日同所田○邊○一郎長男一○當十四年ノ爲ニ散彈ノ裝填シテタル玩具銃ヲ以テ狙撃サレ顔面ニ全治ニ及月餘迄銃創ヲ受ケ直チニ同所根本醫師ノ治療ヲ受ケタルモ同醫師ニテハ治療不可能ナル状態ノ爲ハ方親族間ヲ奔走シタルモ何レモ同様生活状態ナル故全ク困却ノ折柄^{恩賜}濟生會アルヲ聞知シ所轄矢板警察署ニ出頭一月二十五日縣立病院ニ於テ入院診斷シタルニ眼瞼ハ左右共ニ著シク腫脹シ自カラ開眼シ得ズ皮膚穿孔ハ右眼内眥部ニ二個左眼上眼瞼ニ二個内眥部ニ二個下眼瞼ノ稍々下方ニ三箇ニシテ結膜從著シク充血シ多量ノ結膜下出血ヲ認メ猶左眼眼球結膜ノ上穹窿部ニ近ク二個ノ創口アリ銃丸ハ眼瞼並ニ結膜ヲ破リ眼球後方ニ突入セルモノ、如シ視力右眼前指數辨左眼光覺ヲ辨スルノミ「レントゲン」像ニヨルニ眼面ニ侵入セル銃丸ハ全部右七個ヲ數フ、何レモB B彈ニシテ内三個ハ深ク左眼窩内ニ潛入セリ入院後直ニ眼面並ニ眼窩内ノ銃丸ハ除去シ得タルモ左眼窩内ノ三個並ニ右眼内眥部ノ一個ハ眼球ヲ傷クル恐アルヲ以テ止ムナク中止シ經過ヲ觀察シ止ムヲ得サレバ左眼窩内ニ三個ハ眼球ヲ摘出シタル後之ヲ摘出セザルベカラザルヤウ知ラシメテ手術ヲ終リタルニ醫師ノ熱心ナル治療ハ爲漸次眼瞼ノ腫脹モ消退シ前房出血モ消失シ數日後ニハ辛シク眼底ヲ望見シ得ルニ至リ特ニ右眼ノ硝子體出血ハ速ニ吸收セラレ左眼ハ幾分視力ハ減退セシカ